

ぐんま^{りゅうがくせい}留学生LIFE

ぐんま^くで暮らす・^{はたら}働く



君ぐんまにようこそ

地球の上だよ

君と同じ星の上だよ

メダカもクジラも

猫も象も

草も木も



みんな いっしょだよ

泣くも笑うも いっしょだよ

共に生きる 青い星

詩: 矢内 一雄 (元伊勢崎市長) 絵: 結城 瞳 (当時小2)
Copyright © 2002 Gunma University

INDEX

1	ぐんまの留学生	2
2	ぐんま ^く で暮らす ~留学生の暮らし方~	
	・ 前橋	4
	・ 高崎	6
	・ 桐生	7
3	ぐんま ^{はたら} で働く ~先輩! どうしてるんですか?~	9
4	メンバー紹介、日本人サポーター紹介、編集後記	12

ぐんまに学び・暮らす1,000人の留学生が、 ぐんまに働き・暮らせるように

海外からはるばる、群馬を選んで大学生活を送る1,000人を超える留学生。

専門的な知識や技能を習得し、生まれ育った国と日本の生活習慣の両方を理解するこれら留学生は、群馬県の活性化の大きな機動力になるはず。しかし、これら留学生が卒業後、群馬で働き・暮らすという可能性は実は高くはありません。

我々は、平成24年8月に留学生の卒業への移行過程について、大学関係者と留学生を対象に聞き取り調査を実施しました。その結果、留学生の6割は日本に就職したいと考えていることが判明しました。また、留学生を対象としたビジネス日本語講座や面接指導等の就職支援を積極的に展開している大学もあり、留学生が群馬県内の企業に就職する実績も上がっていることが分かりました。

しかし、日本で就職の夢を叶えられるのは、主として理系の留学生であり、文系の留学生はかなり苦戦していることも判明しました。また、群馬県内に就職したいと考える留学生でも、県内に十分な「就活」の場がなく東京に行かなくてはならない実態も明らかになりました。

そこで、我々は、群馬の未来の担い手となり得る留学生の「学び・暮らす」様子や、群馬で「働き・暮らす」を実現した元留学生の軌跡を、情報誌で紹介することにしました。この情報誌を通して、留学生が大学を超えて群馬で「学び・暮らす」と「働き・暮らす」の情報を共有できるように、そして、群馬に愛着を持ち群馬の活性化に貢献したいという志のある留学生の存在を、群馬の企業関係者や地域のみなさんが、認識していただければ幸いです。

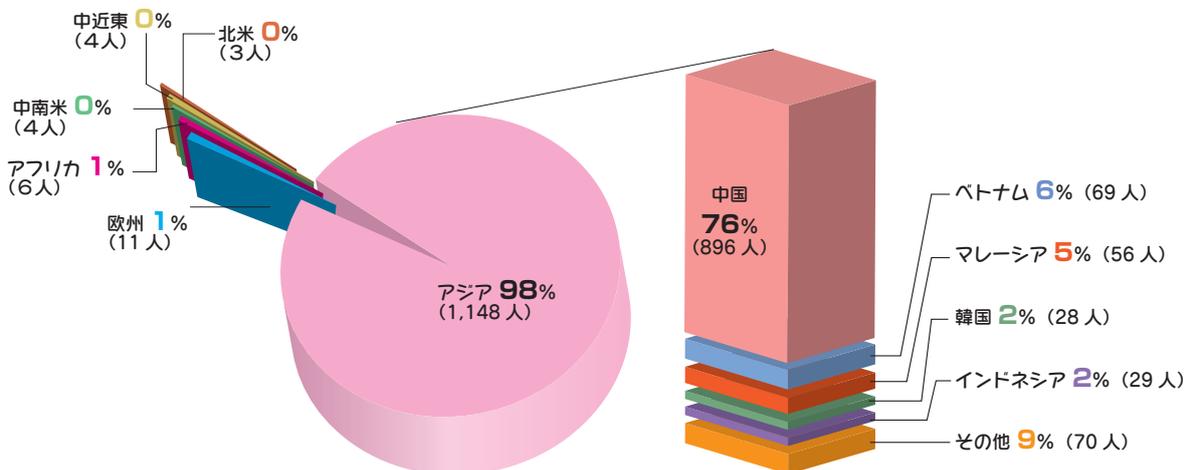
平成24年度「多文化共生推進士」養成ユニット
コンサルタント・コース履修生

鷲谷 亨信 (さぎや ゆきのぶ)・中澤 麻紀 (なかざわ まき)

ぐんまの留学生

群馬県には、37ヶ国1地域から1,176人の留学生が12の大学に在籍しています。そのうちアジア地域の留学生が最も多く、全体の97.6%(1,148人)を占め、国籍で最も多いのは中国で、全体の76.2%(896人)を占めています。

多くの留学生は日本で学び、身につけた知識や技術を活かして、母国と日本の架け橋となり、活躍することを望んでいます。



(平成24年5月1日現在 群馬県留学生交流推進協議会調べ)

群馬の**留学生**は

どのような暮らしをしているのでしょうか？
「東京みたいに便利なところにすればよかったな～」
なんて声が聞こえてきそう…

私たちは、留学生が集まる**3つのまち**を訪ね、
留学生の視線で「**暮らす**」をのぞいてみました。

3地域3様の留学生の「**暮らす**」の
多様な側面が垣間見えてきました。



ぐんまで暮らす

留学生の暮らし方

前橋市

前橋市内で学ぶ留学生は、群馬大学（荒牧・昭和キャンパス）・前橋工科大学など4大学（高等専門学校を含む）約150人（H24年現在）。留学生の出身国は、30か国以上に及んでいます。

高崎市

高崎市内で学ぶ留学生は、高崎経済大学・上武大学（高崎キャンパス）など6大学（短期大学含む）約420人（H24年現在）。留学生の多くは、中国やベトナム・韓国などのアジア出身者です。

桐生市

桐生市内には、群馬大学工学部（桐生キャンパス）があります。桐生キャンパスには、学部・大学院を中心に、約180人（H24年現在）の留学生が在籍しており、日々、研究に取り組む姿が見られます。

C O N T E N T S

1	前橋とのラブストーリー	4
	（群馬大学荒牧キャンパスに留学！前橋との出会い、そして…）	
2	留学生の目から高崎を見ると	6
	（高崎経済大学、高崎商科大学留学生の地域の見方）	
3	桐生の留学生はリア充!?	7
	（群馬大学桐生キャンパス 理系の都に潜入!）	

前橋とのラブストーリー



前橋に来てわずか1年の中国からの留学生鐘さん。彼女は前橋を「われらのまち」と呼びます。何故そう思えるようになったのでしょうか。そこにはまちの人々の温かさや出会いがありました。



Episode. I 出会い …………… 受験したとき



それは春先のことでありました。初めて前橋にやってきました。駅を出て、全く見知らぬ町で、私は不安を抱えていました。バスの乗り方さえ知らなかった私は、なんとかバスに乗り込みました。そのとき、とあるやさしい声を耳にしました。それは運転手さんの声でした。はじめてバスに乗ってきた小学生が降り口で戸惑っていて、運転手さんがゆっくり声をかけていました。「偉いね、一人で乗ったのかい？そうか。ここにいればいいんだよ」運転手さんの様子を見て、乗っていた乗客たちも温かい目で見守っていました。その微笑ましい場面を見て、日本の男の子が「バスの運転手になりたい」という気持ちがやっとわかりました。そして、少し落ち着いた気持ちで受験会場に着きました。やたらに広い場所で、人影が少なく、草木の音しかしませんでした。ちょっと視線を延ばすと、山（赤城山）が見えます。この穏やかな景色を見て、私は無事に受験を終えました。帰りの電車で、まさかまたこの町に来る日がくるとは、考えもしなかったのです。そう、ここに来た人は、みんなとある縁に繋がっているのです。ラブストーリーは突然に。

Episode. II フォーリンラブ

1ヵ月経って、ようやくこの生活に慣れました。東京などと違って、家賃も安いし、自転車さえあれば不便を感じることはありませんでした。学校には、勉強を助けてくれる日本人チューターがいるし、ホストファミリーのお母さんがいるし、日常生活や勉強のサポートデスクがあるし、とても心強いです。チューターと一緒に研修旅行に行ったり、ホストファミリーのお母さんとご飯を食べたり、交流室にいるサポートデスクの学生と一緒に騒いだりしました。地元のボランティアさんが多くて、みんな親切で、留学生としてラッキーだと思っています。



何より、たくさんの先輩たちがいてくれて、友達もできて、楽しい毎日でした。入学時の桜、夏の花火大会、バラ園やフラワーパーク等々のスポット、祭りを楽しんでいました。しかも、新しい店も次々オープンして、これからはますます便利になるでしょう。自分も前橋と一緒に成長していくような感じでした。ここには、いろいろなところから来た人たちがいて、そんなに大きなまちではないが、いろいろな出会いがあって、実に不思議なまちです。世界は広いが、ここにも小さい世界ができています。美しい夕日、ロマンチックな花園、透き通る星空、隣の野球少年等々、どれでも私たちのカメラによく映る景色です。一枚ずつの写真を見たら、お分かりになるでしょう。そうです、私は前橋が好きになりました。



Episode.Ⅲ 倦怠期

しかし、半年経って、ちょっと嫌になってきました。親しい友人の帰国のショックもあって、毎日人影の少ないバス停で、ポツツンとひとりで待っていました。それはとても寂しくて、悲しい思いでした。しかも、他の町に行ってみたら、前橋の地味さを感じて、帰り道でいつも落ち込むような気分でした。



東京のような大都市じゃなく、買い物も不便だし、遊べるところも少ないし、大阪のような賑やかな町でもなく、静かで、時々風の悲鳴しか聞こえませんでした。そしてここに来てから、「どうして、何のために私がここに来たんだろう」と、ずっと悩んでいました。そういうときには、ほぼ1つの答えしかたどり着けません。私たちはいろいろな偶然を重ねて、あのとき、前橋に、ばったり出会ったのです。その瞬間がすべての始まりです。**嫌だと感じたのは、ここの生活に慣れてきた証拠です。**悪いことというより、必ず経験することだと思えます。



Episode.Ⅳ ゴールイン

あっという間に、1年が経ちました。すっかりここの生活になじんで、ふるさとのように感じます。少々不便もありますが、これはよく言われている言葉、「住めば都」ということなのでしょう。自転車で行けない場所もあるが、車の免許を取るには便利だし、取れるのにそんなに時間はかからないのです。前橋の近くには、高崎や渋川やみなかみなどの町があって、なかなか便利な位置だと思えます。アルバイトをやりたければ、すぐ見つかるし、1年しかいない



交換留学生の中にもやっている子がいます。1年の間には、病院デビューの留学生もいました。学校の健康センターはもちろん、近くの病院はとても便利で、1人でも安心して行ける場所です。お医者さんがやさしいし、手続きや薬のことなども丁寧に説明してくれます。そして、季節が巡って、新しい留学生、新しい友達を迎えることになりました。どれも**素敵な出会い**ばかりです。他の町に比べて、留学生の数が多くはないが、1,000人くらいはいます。些細なことしかできないが、ここのひとりの住民としてお互い支え合っています。きっとあなたもここを好きになると思えます。ようこそ、われらのまち、前橋へ。



主人公紹介

鐘 詩陶

母国中国から日本に来て2年目。東京の日本語学校に1年半通ったあと、群馬大学社会情報学部に入學。現在前橋市在住。



留学生の目から高崎を見ると



3つの地域の中で最も多くの留学生が暮らし、学ぶ高崎市。このまちは留学生の目にどう映っているのでしょうか？中国からの留学生陳さん、張さんが高崎を語ります。



I おしゃれなまち高崎・・・ワクワク、ドキドキの魅力がそこかしこに

張さん：高崎の図書館が新しくとてもきれいなので、よく使っています。市役所のまわりでは、春になると城跡のお堀や高崎公園などの桜の花が、冬はまちなかや榛名湖などのイルミネーションがとてもきれいで大好きです。また高崎の人はとても親切で大好きです。



陳さん：大きな地震があったときも、国にいる両親はとても心配していましたが、「高崎は地震や台風にも強いから大丈夫」といって安心してもらっています。高崎は「パスタのまち」として有名ですが、私はパスタが大好きなので、大好きなお店がたくさんあります。また、映画の撮影もよくやっていて、中国でとても有名な映画も高崎で撮影されたことは、友だちや家族もよく知っています。

II まちなかでの交わり豊かな高崎・・・まちづくりゼミに、国際交流に

陳さん：高崎は大きなまちに比べると物価も安いし、便利なまちだと思います。もともと大きなまちはあまり好きではなかったので、勉強するのに集中しやすいし、たまに遊ぶのなら東京のような都会もいいけど、生活するなら高崎がちょうどいいと思います。高崎は地域のイベントなども多く、大都会ほど忙しくないのが好きです。大学のゼミでまちづくりに参加していますが、毎月イベントがあって、その準備がとても忙しいけど、留学生活はとても充実しています。



張さん：最初は日本語学校に通うので前橋に住んでいましたが、その頃から高崎駅周辺でよく遊んでいたのが高崎の大学を選びました。国際交流活動にも関心があって、国際交流協会でボランティア活動をしています。友だちづくりが好きなので、まちづくりや国際交流活動に参加することで、留学生だけでなく、たくさんの日本人の友だちを作ることができました。



III 意外に不便なところもある高崎・・・交通アクセスと就活情報は課題？

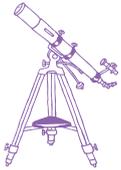
陳さん：私の大学は中国などのアジアからの留学生が多いです。日本人の学生も日本全国から入学しているので、とても面白いです。就職活動のときは、多くの企業が集まって大学内で説明会を開催しています。学園祭にもぎやかでとても面白いです。大学の中だけだと、その中でしか友だちができないけど、まちづくりや国際交流など地域の活動も多く、日本人たちとのつながりもできるので、地域の活動にぜひ参加してほしいです。

張さん：高崎は都会すぎず田舎すぎないところがいいです。高崎での生活は車があると便利ですが、バスや電車などの公共交通は不便だと思います。バスの乗り方など大都市とは違うので迷うことがあります。留学生が車を手にするのは大変ですが、最近車を持っている留学生もたくさんいます。

ずっと群馬に住みたいけど、在留資格の問題や地元企業の募集が少なく、留学生にとってはまだまだ就職は難しいです。もし、私たち留学生が群馬に住み続けようとするなら、企業の意識が変わることが必要だし、また、企業がどんな人を求めているのかがわかれば、私たち留学生も自分の働きたい企業を探しやすいと思います。



桐生の留学生はリア充!?



1日12時間も研究室にこもることもあるという工学系留學生生活。留学生は黙々と実験してるの？彼女とデートしてるの？

荒牧キャンパスの留学生3人が潜入、そこで見たものは？

※注「リア充」とは、実際の現実の生活（リアル生活）が充実している人のこと

桐生学生 インタビュー！

★桐生キャンパス参加者★

劉さん(修士2年)、高さん(修士2年)、呉さん(博士1年)、程さん(修士1年)、張さん(修士1年)、楊さん(修士1年)、小島さん(修士2年)

— 桐生はどんなところですか？

- 自然が豊かです。近くに川が流れているので、夏はそこで仲間とバーベキューをします。川で泳ぐこともあります。
- 物価は他の地域に比べて安いのではと感じます。
- 最初に桐生に来たときはすごい田舎にきてしまったとおもいました。自然が多いなと。しかし、静かで勉強するには良いところだと感じています。



— どのような学生生活を送っていますか？



- 研究室で過ごす時間が多いです。朝10時から22時までいることも。研究室にずっといることが多いですね。
- 留学生会館があり、多くの留学生がそこに住んでいるので、交流の場になっています。年末の年越しもみんなと留学生会館で過ごします。留学生会館は部屋数に限りがあり、入居者はくじ引きで決まります。外れると自分で住む場所を決めなければならないので、経済的にも厳しいことがあります。
- 留学生のサークル活動はあまりなく、同国人のつながりか、ゼミのつながりが主です。

— 彼女ができたらどんなところにデートに行くのですか？



- あまり思い浮かばないのですが（笑）、川沿いを散歩とか？
- 桐生にも映画館があるといいなと思います。映画は「世界の中心で愛をさけぶ」が好きです。
- 遊ぶところはあまりなく、デート場所を考えるのがめんどろなので彼女は作りません（笑）。

— 生活をする上でこまったことなどはどうしているのですが？ 荒牧キャンパスではチューターがおり、学生の相談にのってくれるのですが…。

- 留学生センターには先生がおり、相談にのってもらうことができます。しかし大きな問題にならない限り、相談には行かないですね。
- 以前マンションの下の階の人と足音がうるさいとトラブルになったことがあります。そのときは自分でマンションの住民と話し合いをしました。結局自分が引っ越すことになったのですが、トラブルは自分たちでできる限り解決しています。
- 就職活動の際には留学生センターを利用します。いろいろなサポートをしてもらえます。



— 卒業後の進路はどうするのですか？

- 神奈川で就職します。
- 東京の電気メーカーに就職します。
- まだ決めていませんが、就職は日本で考えています。いずれ帰国するにしても、日本の就職活動や企業文化を知ることは今後のよい体験になると思っています。

留学生 VIEW

胡さん（中国からの留学生、群馬大学社会情報学部2年生）

- 桐生は自然が良い、古い静かな町である。緑の山に囲まれたから、風が非常に強い、「風の谷」でも呼ばれるのかな。
- 桐生は勉強に良い場所だと思う。有名な先生たちと研究室及び先端な設備は数多くあるし、学校の雰囲気が非常に良い。
- 研究が忙しいため、サークル活動を参加できなかったが、留学生たちみんなよく集まってスポーツする。
- 勉強が嫌になって疲れるとき、川に沿って散歩するのがとても気分が良い。そして、川でBBQできる。留学生はそこそこリア充だと考える。

鐘さん（中国からの留学生、群馬大学社会情報学部1年生）

- 静かな場所で勉強や研究には最適でしょう。
- 学生たちの娯楽と聞いたら、まさかのBBQです！参加してみたいですね！
- 桐生は山に包まれていて、年代を感じさせます。雄大な神社、独特な町並み、どれも印象に残りますね。
- これから桐生に行く工学部の子たち！噂に、彼女もあまりできないらしいので、予め作っておいてください！あるいは、勉強に一筋なら大丈夫！



下津さん（ブラジルからの交換留学生、群馬大学社会情報学部）

- 留学生たちが言う通りに勉強や実験などに集中しやすそう！
- 山に囲まれていて田舎町の感じがして、静かでもとても穏やかな雰囲気
- 桐生には色々ないい所がありますが、もう少し賑やかな所があったらいいなってという声が多いですね。



群馬県に留学したことのある**留学生**は
 みな今何をしているんでしょうか?
 実は! 県内の大学を卒業しても**ずっと**群馬を
 生活の地として選んだ**先輩方**がいるんです。
 群馬で**働き続ける理由**教えてください!



ぐんまで働く

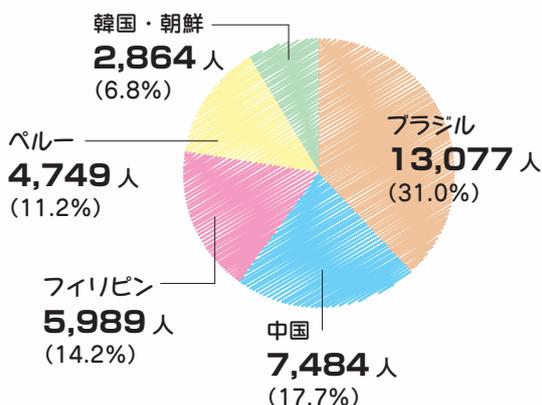


ぐんまに暮らす外国人 ~外国人登録者数から~

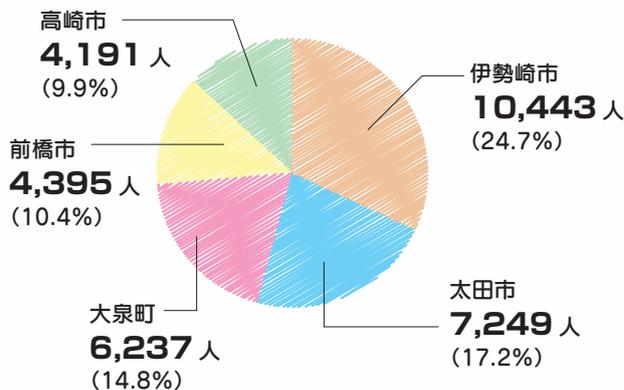
登録者: **42,233** 人
 国数: **105** カ国

※県人口の **2.1%** を
 占めるそうです!

国籍別に見てみると...



市町村別に見てみると...



東毛にはブラジル人・ペルー人が、前橋・高崎には中国・韓国人が多い傾向にあります。

(平成23年12月末現在)群馬県ホームページより

ぐんまでの働き方教えてください!

先輩インタビュー

卒業後私たちはどうなるのだろう? 群馬で暮らし・働き続けるってどんな感じ?

1人でも多くの留学生が群馬で生き生きと暮らせるにはどうしたらいいのだろう?

そのヒントをもらうため、留学生として群馬で学び、群馬で就職をした2人の先輩から話を聞きました。

インタビュアーは下津ミリアン鮎美さん(ブラジル)、胡琛さん(中国)、張文熙さん(中国)と日本人サポーター3人です。



●先輩紹介

・田畑 瑞華さん

中国内モンゴル自治区出身。高崎経済大学卒業後、日本人と結婚し、現在高崎市在住。2000年から高崎市外国人相談員として高崎市役所に勤務。群馬で生活して19年。

・アメイボ ジョージーナ エイシナムさん

ガーナ共和国出身。高崎市内の大学・大学院卒業後、英語指導助手として英語指導にあたる。高崎市在住。群馬で生活して6年。

※以下敬称略

“ぐんま”ってどうですか?

—なぜ群馬に来たのですか?

田畑: 姉が先に群馬に留学していました。群馬は自分の生まれ故郷と変わらない四季があり、犯罪も少なく、安心できると聞き、東京などの都会ではなく、あえて高崎経済大学を選びました。群馬は長く住み続けるうえでとても住みやすいと感じています。

ジーナ: 絵のコンテストで入賞したことで、日本の大学から奨学金を受けて留学できることになりました。友達が群馬におり、安心安全で地震が少ないと聞きました。地域で楽しむなら群馬とも言われました。群馬県で、芸術系の大学ということで創造学園大学を選び、ユニバーサルデザイン、サステナブルデザインを学びました。子供も大好き。子供の役に立ちたいと現在は英語指導助手(ALT)になりました。

胡: 私は先輩が群馬大学工学部におり、群馬大学のことを聞いて自分に合っていると思えました。

下津: 私の祖父は群馬県出身なので、群馬を選びました。日系ブラジル人3世です。

張: 中国で群馬県の日本語学校の方と知り合いになったことがきっかけです。前橋の日本語学校に通い、群馬が好きだったので、県内の大学に進学しました。



—群馬(日本)に住んでみてどうでした?

田畑: 日本のこたつは本当に良いと思えましたね(笑)。群馬は桜、紅葉など四季折々がとてもきれい。内モンゴルには紅葉などはあまりなく、初めて見たときは感動しました。

張: 群馬県は静かで空気や水もおいしいです。春夏秋冬の季節感が感じられ、群馬がとても好きになりました。

渡邊: 私は群馬出身ですが、四季で様々な楽しみ方ができ、山やスキーに行くなど自然とふれあいながら過ごせるところは良いところだと思います。

ジーナ: 群馬の夏はとても暑いと感じますね。ガーナは暑い国と思われがちですが、乾燥しており、群馬の夏よりは過ごしやすいですよ。

群馬で働くということ

—これから働くために必要なことはありますか?

田畑: 学生時代は地域での活動をしてこなかったため、仕事の情報があまり入ってこなかったですね。地域での国際交流や多文化の活動を積極的に参加していくことで、様々な情報も手に入るし、就職活動についてもアピールになると思います。

ジーナ: 就職活動は卒業前からはじめないとダメですよ。自分が何をやりたいかを早めに決め、動かないとどんどん遅れてしまいます。

張: 現在、私は介護のアルバイトをしています。このまま介護の仕事継続した場合、ビザがとれるか不安です。

田畑：就職するうえでは、母国語と日本語を仕事で使う、または大学での学びを活かしたものでないとビザがとれない場合があります。職を探すときにも、そのような視点で考えた方が良いと思います。県内では、買い物をする時の通訳などに留学生を採用している企業もあります。就職をした先輩達に相談に乗ってもらおうと良いと思います。

ジーナ：資格あると就職の強みになりますね。ただ、日本のために役に立つことをやりたいという思いがあり、それを伝えられればビザはとれると思います。

— 群馬で働いていて大変だと感じることはありますか？

田畑：仕事で地域の外国人の就労支援もしていますが、民間企業では語学が話せる等関係なく「外国人はお断り」と言われるケースが多くあり、とても悲しく感じています。

張：私もアルバイトを探しているとき、「外国人だから」と断られたことがあります。

ジーナ：私も仕事を探している時に、アメリカ人やイギリス人以外お断りといわれたことがあり、すごく悲しい思いをしました。しかし、最初は苦しいですが、努力していれば周囲は変わってくると信じて仕事をしています。

田畑：私は日本人と結婚し、近所の住民に助けられながら生活出来てはいますが、多文化社会への理解が進んだ面とそうでない面があるのは感じています。外国人の私たちも努力をしなくてはとは思いますが、もっと企業の外国人受け入れが進めばいいと思います。2006年に高崎に住む中国人同士で「華人会」を創りました。このようなネットワークがあると、同国の人と日本でも知り合う機会が生まれます。普段話せない日本での悩みを話したり、聞いたり出来るのでいいですね。大事なのは、解決することよりも聞いてもらうことではないかと思っています。

地域で生活し、地域に貢献する

— 地域で生活するうえでの苦勞は？



田畑：中国人と日本人の習慣の違いはとても感じることです。友人の家を訪ねる際、中国人はどンドン家の中に入って行くのですが、日本人はチャイムを押し家主が出てくるのを待ちますよね。このような、ちょっとしたことなのですが、ご近所関係では重要なことが分かるようになるのがとても大変でした。

ジーナ：習慣の違いは私もすごく感じます。そのため、大学の卒業制作では習慣の違いについての外国人向けの冊子を作りました。内容はトイレの使い方など自分が感じた習慣の違いについてです。5か国(中国、英語、韓国、ポルトガル、日本語)に翻訳し、周りの人に配布し、とても喜ばれました。ニーズがすごくあると感じたため、今後、販売し、売り上げで子供の支援などに使いたいと考えています。やりたいことがあったら失敗してもトライしていきたいと思っています。

田畑：私は地域政策学部で学んでいたため中国語と日本語を活かして地域活性に携わりたいとずっと思っていました。在学中に日本人と結婚し、子供が生まれ、その子たちが日本で育っていくと、どうしても日本語・日本文化中心の生活になってしまいます。しかし、母が中国人だというルーツを忘れてほしくない。その思いから、地域の子供向けの中国語講座を始め、今年で3年目になります。子供に異文化を体験してもらうことを大切にしたいと思っています。

— 故郷に帰ろうとは思わなかったのですか？

ジーナ：1度も帰らず仕事を続けています。学生時代から市の国際交流のボランティアを続けていたので、日本人の仲間が増え、就職などのチャンスが広がったことも大きかったですね。ガーナと日本の懸け橋になりたいと思っています。母親は日本での生活を心配し、帰ってほしいとよく言われます。連絡をしばらくしなかったら、母は「ジーナが死んじゃった！」と泣いていたこともあったそうです。しかし今、故郷に帰っても故郷で日本での経験はなかなか活かせないの、日本でがんばろうと思っています。

田畑：中国でも北京や上海などの都市部では仕事で日本語を活かせると思いますが、故郷の内モンゴルでは日本語や日本での経験を活かすことは難しいですね。

これから社会にでる留学生の皆さんへ

— 留学生へのメッセージをお願いします。

田畑：卒業して日本に残るか国に帰るかは別にして、日本での留学経験を活かし日本と母国の架け橋になっていただきたいです。どんな小さなことでもいいと思います。今、中国と日本の国は緊張した関係だけど、日本での経験を活かし、日本のいいところ、中国のいいところを紹介できる人材になってください。

ジーナ：何があってもあきらめないでほしいです。今、日本での生活が苦しいと感じても、きっといいことがあります。日本で働きたいなら就職活動もお早めに！そうすれば在留資格の問題もゆっくり考えられます。私は子どもが好きなので今の仕事を選びました。自分の好きな仕事を見つけてください。



メンバー紹介

① 名前 ② 所属・学年 ③ 国籍



- ① 胡琛
② 群馬大学
社会情報学部 / 2年
③ 中国

ひとこと

いろいろな課外活動は私の留学生生活を充実させている。先生や同窓、サークルの先輩後輩、バイト先の方、大家さん及び近所、みんなが優しく、仲良いので、毎日とても楽しい。同じ志を持っている友たちもできて、心から前橋が好きになった。この大きな街はまるで私の第2の故郷である。卒業後も日本で就職したいと思う。



- ① 下津 ミリアン 鮎美
② 群馬大学 社会情報学部
研究生
③ ブラジル

ひとこと

日本の留学は一生忘れられない素敵な経験でした。将来は留学で得た知識を生かす仕事をしたいと思います。



- ① 楊志翔
② 群馬大学
大学院工学研究科 / 1年
③ 中国

ひとこと

桐生の生活をこれからもっと楽しみたい。



- ① 鐘 詩陶
② 群馬大学
社会情報学部 / 1年
③ 中国

ひとこと

1年間前橋の皆さんにお世話になりました、これからもどうぞよろしくお願ひします(≧▽≦) 将来日本で働けるなら有難いです!



- ① 陳 麗
② 高崎経済大学
経済学部経営学科
③ 中国

ひとこと

初めて留学生を中心に交流を行う活動に参加し、とても面白かったです。また、群馬県内の留学生が集まって、より多くの人と出会うチャンスを与えてくれて、今後もこの留学生ネットワークを通じて、皆さんとぐんまをアピールしていきたいと思っています。



- ① 張 文熙
② 高崎商科大学流通情報学部
流通情報学科
③ 中国

ひとこと

人生に後悔ないように、頑張って生きていきたい!



- ① 陳 震一
② 群馬大学大学院
医学系研究科 / 1年
③ 中国

ひとこと

今は群馬大学大学院で病態薬理学を研究しています。実は私の大学時代の指導教員は群馬大学医学部の卒業生なので、群馬大学に来ました。修士を卒業したら、博士の勉強をしたいと思っています。

自分のコーヒー店を運営するのが私の夢です。コーヒーを飲みながら、本を読むことで一日居られる店を作りたいです。



- ① 張 坤
② 群馬大学工学部 / 1年
③ 中国

ひとこと

留学生同士のつながりがもっと強くなれば良いなどおもいます。

JAPANESE SUPPORTER INTRODUCTION

日本人サポーター紹介



ひとこと

留学生との関わり合いは、自分の世界を広げてくれます! わくわくの連続!!

渡辺 絵里
群馬大学教育学部 / 4年



ひとこと

活動に参加していく中で、地域との交流が上手くなされていない現状を知った。この現状に対して今回私たち留学生班ではパンフレット製作を行ったが、これをきっかけに群馬に来られる留学生の方々が群馬での留学生活に対して実感と希望を持ってくれれば幸いだ。

渡邊 慎也
群馬大学教育学部 / 4年



ひとこと

留学生ネットワークに参加し、たくさんの方々や発見に出会い、貴重な体験をすることができました。この活動が留学生の方々のコミュニティを広げることに助けとなるのが出来れば幸いです。

高波 恵璃
群馬大学医学部 / 1年

編集後記

この冊子は「ぐんま」に暮らす留学生の日常に焦点をあて、留学生の視点で彼・彼女らの暮らすまちを描き出すことをねらいとしています。今回のプロジェクトに賛同してくれた留学生と日本人学生との協働によって、まちへの想いが詰まった冊子となりました。この留学生の想いをつなぐためにも、このプロジェクトをさらに発展させ、豊かな見方、考え方を多方面で活かし、実践につなげる、大学の枠を超えたネットワークづくりを推進していきます。まちのみなさまもこの仲間に入りませんか。

「多文化共生推進士」養成ユニット ホームページ
<http://jst-tabunka.edu.gunma-u.ac.jp>

《ぐんま留学生ネットワーク》

<http://www.facebook.com/groups/gunma.ryuugakusei/>

《前橋留学生活ーハタラクラスー》

<http://www.facebook.com/diversity.maebashi>

編集・発行
群馬大学多文化共生教育・研究プロジェクト推進室
〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地
TEL / FAX : 027-220-7382
E-mail:pcdc@ml.gunma-u.ac.jp